

(小・中学生の部)

最 優 秀 賞

【無意識ってこわいよね。】

「コロナで感染者が学校で出た」というメールをもらったとたん生徒や親は「誰がかかったの?」といっせいに問い合わせた。無意識かもしれない。悪気はないのかもしれない。でもそれって誰かを傷つけてませんか?

優 秀 賞

【本当にそれでいい?】

それって人を傷つけていることを知っていましたか。あなたの書き込みによって、個人の名誉やプライバシーを奪っていることを。あなたにとっては一瞬のことに過ぎない。でも相手には一生の深い傷として残っていく。

優 秀 賞

【「ちょっと」の重さ】

「ちょっとしたこと」はやがて「深い傷」になる。「深い傷」は永遠に消えない。「ちょっと」は「深い」の前兆なのだ。いじめは相手も自分も嫌な思いをする、最も罪深き行為だ。すべては「ちょっと」からはじまる。

優 秀 賞

【あなたのおかげで】

私がつらい時、あなたが優しい言葉をかけてくれたおかげで、私はたちなおることができました。「大丈夫?」「元気出せよ」とか言ってくれて私はとてもうれしかったです。いつかあなたがつらくなったら私が支えます。

佳作

【ありがとうとごめんなさい】

ありがとうとごめんなさい。みなさんはこの言葉を日々の日常に使っているのでしょうか？私は、ありがとうとごめんなさいをしっかりと言える人間になりたいです。大人になってもこの言葉は必要となってきます。

佳作

【あいさつはまほうの言葉だ】

ぼくはいつも学校へ行く時ボランティアの方が毎日「おはようございます」あいさつしてくれます。暑い日も雨の日もいつも笑顔で、あいさつしてくれます。その言葉をもらうと毎日、今日もがんばろうと元気がもらえます

佳作

【コロナ差別】

私の親は医療じゅうじ者です。コロナに一番最初に関わります。その中、周りの人たちからは「コロナをうつすな」と言われてきました。感染のきょう怖の中頑張ってくれている人たちに感謝するべきではないでしょうか。

佳作

【個性が輝やく未来】

まわりの人とちがうからっていじめて良いわけじゃない。一人一人個性があって、個性があるから面白い。みんながその事に気付いたら、一人一人が輝やいて見えると思う。いつかそんな日が訪れますように。

佳作

【なにげない】

なにげない言葉や行動で人は傷つく…。言った本人は忘れていても、言われた人はずっと心に残る。忘れたくても忘れられない。一度立ち止まって自分の言葉、行動をふり返ろう。

(高校・一般の部)

最優秀賞

【おねがい】

SNS での誹謗中傷。途端に孫が不登校になった。ねえ、皆。言刃じゃなくて心を向けて。画面じゃなくて顔を見て。空気なんか読まないで相手の心の中を読んでごらん。これ以上 SNS から SOS を出さないで。

優秀賞

【今、母へ。】

母が僕に、僕の障害について謝ったことがある。その時、いじめられた記憶を思い出し、何も声をかけることが出来なかった。でも、障害のおかげで、僕は人に優しくなれた。今、母へ。「産んでくれてありがとう。」

優秀賞

【「行ってらっしゃい」、「おかえり」の一言】

駐輪場のおっちゃんの「行ってらっしゃい」、「おかえり」の一言、つらいことがあっても一瞬忘れさせてくれます。たった一言で人の気持ちは変わります。良い方向にも悪い方向にも。だからぼくは一言を大事にします

優秀賞

【広がれ、「どうぞ」の輪！】

「どうぞ」高齢女性に席を譲った若い女性の鞆に、マタニティマークがあった。「どうぞ」私はその女性に席を譲った。「ここにどうぞ」高齢女性が私のリュックを膝に乗せてくれた。「どうぞ」は慈愛の輪を作る。

佳作

【大きな背中】

林間学校の時に腹痛で動けなくなった僕を先生のもとまで運んでくれたのは、大きな身体のせいでいじめられていたクラスメイトだった。僕だって、彼を避けていた。それでも彼は僕をその大きな背におぶってくれたんだ。

佳作

【娘へ】

「会ってもらいたい人がいるの」と娘。「ええよ。おまえが選んだ人や、間違えるはずないがな」と私。「パクって人なんだけど」「せやから間違えてないんやろ？」しょうもないこと言わんと、はよ連れておいで。

佳作

【ごめんねよりありがとう】

席を譲ると「ありがとう」と笑うおばあさん。「ありがとう」と言われ嬉しい私。何気ない一言だけど、今日も頑張れる。「ありがとう」って偉大だな。

佳作

【自分の本当の笑顔を忘れた君へ】

今が辛いなら逃げればいい。今が辛いなら下を向いたっていい。ただ、今が辛くても命を捨てることだけは絶対にしないでほしい。無理に笑わなくたっていい。大丈夫。いつか心の底から笑える日が来るから。

佳作

【偏見の怖さ】

学校では、様々なうわさが流れ、話したこともない人のことを嫌いになる人がいます。私はあくまでも自分の目で見て感じたことを信じるように心がけていますが、不確かな情報をすぐに信じる人は怖いなと思いました。